

表 「長崎果研原口1号」の果実

品種名	栽培方法	平均調査日	1果平均重(g)	果径指数*	浮皮発生程度	糖度	酸含量(g/100ml)
果研原口1号	露地栽培	10/20	111.0	131.7	1.3	10.9	0.76
	シートマルチ栽培	10/20	88.3		1.1	12.8	1.23
原口早生	露地栽培	10/20	113.9	127.2	0.0	9.9	0.87
岩崎早生	露地栽培	10/18	111.0	145.6	31.1	10.8	0.74

※: 横径/縦径×100

露地栽培は5カ年の平均値、シートマルチ栽培は現地試験のデータで2022年の単年度データ

早生温州ミカン「長崎果研原口1号」

高い糖度と早い成熟

市場から高い評価得る

現場で使える！研究成果



「長崎果研原口1号」の果実および断面

早生温州ミカン「長崎果研原口1号」は、「原口早生」の枝変わり系統から育成した珠心胚実生を選抜した長崎オリジナル品種だ。露地栽培では、10月中旬に糖度11度程度、酸含量は100ミットル当たり0

・80以下となる。シートマルチ栽培をすることで糖度は高くなり、10月下旬でも糖度12度以上の高糖度果実生産が可能となる。また、じょうろ膜は「原口早生」のよう薄く、食味が良い。着色歩合は10月下旬に6〜8分となり、「原口早生」と比べて15日程度早く成熟する。果径指数は「原口早生」とほぼ同等で、岩崎早生よりやや丸い果実だ。浮皮果は年によって発生がみられるが、岩崎早生の同時期と比べると少ない。樹勢は中程度で「原口早生」や

「岩崎早生」と同等だ。現地事例では、10月下旬に収穫して11月初めから出荷したところ、市場からは高い評価を得ている。  
(長崎県農林技術開発センター カンキツ研究室 中里一郎)